

カケアガリ、障害物、流れ込みの溝……  
湖底のようすをドローンで確認!



人(人)気  
ジャンル  
大研究!

## 空撮ポイントガイド

# 洞爺湖

写真・文=奥本昌夫(札幌市)  
Photo & Text by Masao okumoto

中央に中島が浮かび、いかにもカルデラ湖といった風情の洞爺湖。アクセスしやすく、しかも丸々と太ったトラウト類がねらえるので、道央エリアのフィールドの中でも人気は高い。今回はそのメジャーポイントを、ドローンで空撮。空から見ると、湖の中は丸見え。魚が寄りそうなポイントは、いったいどこにあるのか……。

### 70cmに手が届く場所

道央地域では最大級の自然湖が洞爺湖だ。古くから移植放流が盛んで、ルアー・フライフィッシングの主なターゲットはサクラマス、ヒメマス、ニジマス、ブラウントラウトなど。ワカサギをベイトとするトラウト類が豊富な湖である。湖を一周する舗装された道路があり、車でのアクセスが容易で、気軽に入釣できるのも特徴といえる。

近年の傾向としては、サクラマスは個体数、サイズともに良好。ヒメマスはやや小型化しつつあるようだが、代わりにニジマスがとても好調である。昨年の12月から今年3月までの冬～春

シーズンでは、70cm級の大ものを筆頭に、50～60cm台の良型がヒットしている。

洞爺湖は他の透明度の高い湖と同様に、日中の警戒心の強い魚をどのように釣るかがキーポイントになる。好釣果はおおむね天気の悪い荒れた日に多い。風がよく当たり波立つようなポイントこそ、大もののチャンスが高まる。

ベイトのカギはワカサギ。ワカサギの群れが水面上に飛び跳ねている場合は、サクラマスの群れに追われているケースが多い。湖流は一樣ではなく、強い風によって生じるパターンが多いので、ルアーやフライの引き抵抗を感じて判断するとよい。抵抗の強い時間

帯はトラウトの回遊も期待できる。

朝マヅメは洞爺湖におけるゴールデンアワー。冬～春シーズン、夏シーズンともに魚が岸に寄り、水面付近に浮上している、最も有望な時間帯である。また、正午頃から14時の日中も、特に天候の荒れている時は接岸しやすいといわれ、大型がヒットする。

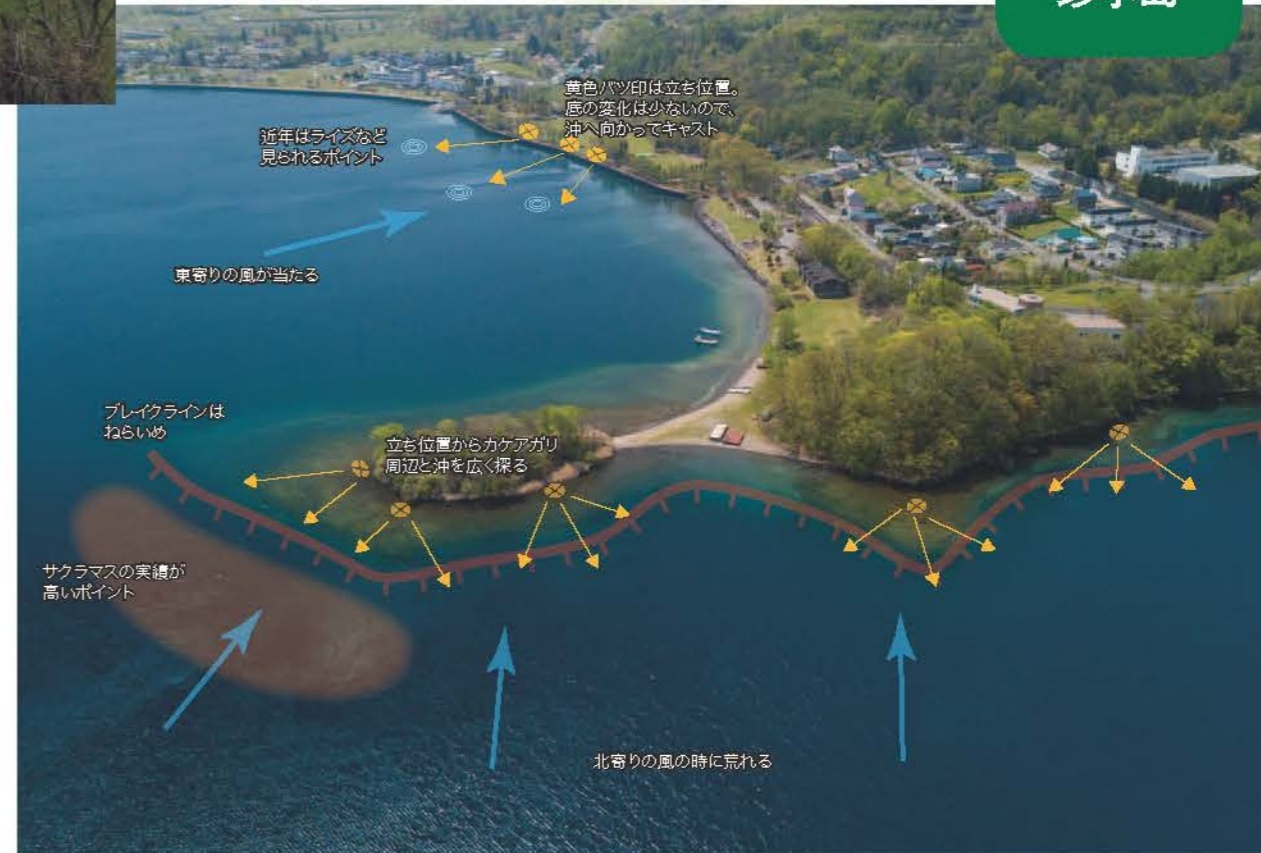
解禁中は各所に刺し網が設置されているが、網がある場所はトラウトの有望ポイント。魚は湖流に向かって走るので、網の下流側をねらうのがよい。通常は風下になるが、逆になるパターンもある。もちろんルアーやフライを引っ掛けて迷惑にならないように気をつけたい。🎣



### Guide 洞爺湖

- 解禁期間: 岸釣り=夏期6月1日～8月31日、冬期12月1日～翌3月31日
- 船釣り=夏期6月いっぱい、冬期12月1日～翌3月31日
- 遊漁時間: 4～19時
- 釣りの主なターゲット: ヒメマス、サクラマス、ニジマス
- 入漁料: 日券1,200円(船釣り現場売り1,500円) 年券20,000円
- 管轄漁協: 洞爺湖漁協 (Tel.0142-66-2312)
- 連絡先: 洞爺湖町産業振興課 (Tel.0142-74-3005)

01  
もんこじま  
珍小島



湖の西南に突き出した岬の一角。南側はやや遠浅で洞爺湖温泉の繁華街も近いので、従来は南岸の浅場などは魚影が薄めだったが、今冬は写真奥の堤防沖でサクラマスのハネが見られ、今シーズンの魚影の濃さを感じさせる。

島の先端部周辺は棚になっていて足場があり、そこから三方が有望なポイント。急深なカケアガリになっており、主にサクラマス、ヒメマスが回遊するポイント。島と接続する馬の背から北側一帯はカ

ケアガリが近く、サクラマス、ニジマスが有望。沖の深場は全体的にヒメマスの回遊エリアになる。水温は高めのため、コイ、ウグイなどが多め。魚影やライズに騙されるので気をつけたい。

冬から春にかけては北～西寄りの出し風が多く、夏のシーズンは風が当たりやすい。キャストのしやすさよりも、風が当たり、湖が荒れている状況のほうが総じて好釣果につながる。記念公園の駐車場を使う。

# 02

つきうら  
月浦



『グリーンステイ洞爺湖』にほど近い、湖岸道路沿いのエリア。全体的に急深な東岸の中で、水通しがよく、魚の回避が近い。足場になる場所は限られ、背後のオーバーハングも多いが、カケアガリは近い。立ち位置から斜めにキャストして、なるべくカケアガリ付近をルアーやフライをリトリブするのが好釣果につながる。岸近くはサクラマス、ニジマスが多く、ヒメマスは沖でよくヒットする傾向にある。よく沈めて速めのリトリブが効果的。小型のウ

グイは岸近くに多い。夏場の南～東寄りの風の時にはよく風が当たり、特にねらいめ。ただしこのポイントは足場が悪いため注意したい。北側に遊漁禁止区域があり、看板が設置されているので見落とさないように。一帯の道路は狭いので、駐車スペースが見つけない。通行の邪魔になる路上駐車は慎みたい。



湖に突き出した半島。半島そのものが岩盤の上になっており、その先端の先に岩のカケアガリがある。トラウトはその沖側を回避する。ねらいは正面から沖側で、岸近くはニジマス、サクラマス、沖めがヒメマス。写真で見える岬先端部の複雑な地形のブレイク沿いに、思わぬ大ものが泳いでいることがあるので、人がいない時やマヅメ時

などは静かにアプローチするといひ思いをすることも。半島の左右は遠浅で、ウグイやコイが多いが、小型のニジマスやサクラマスが群れていることもある。公園で観光目的の人の出入りも激しいため、バックキャスト時などはトラブルに気をつけたい。

# 04

うきみどう  
浮見堂

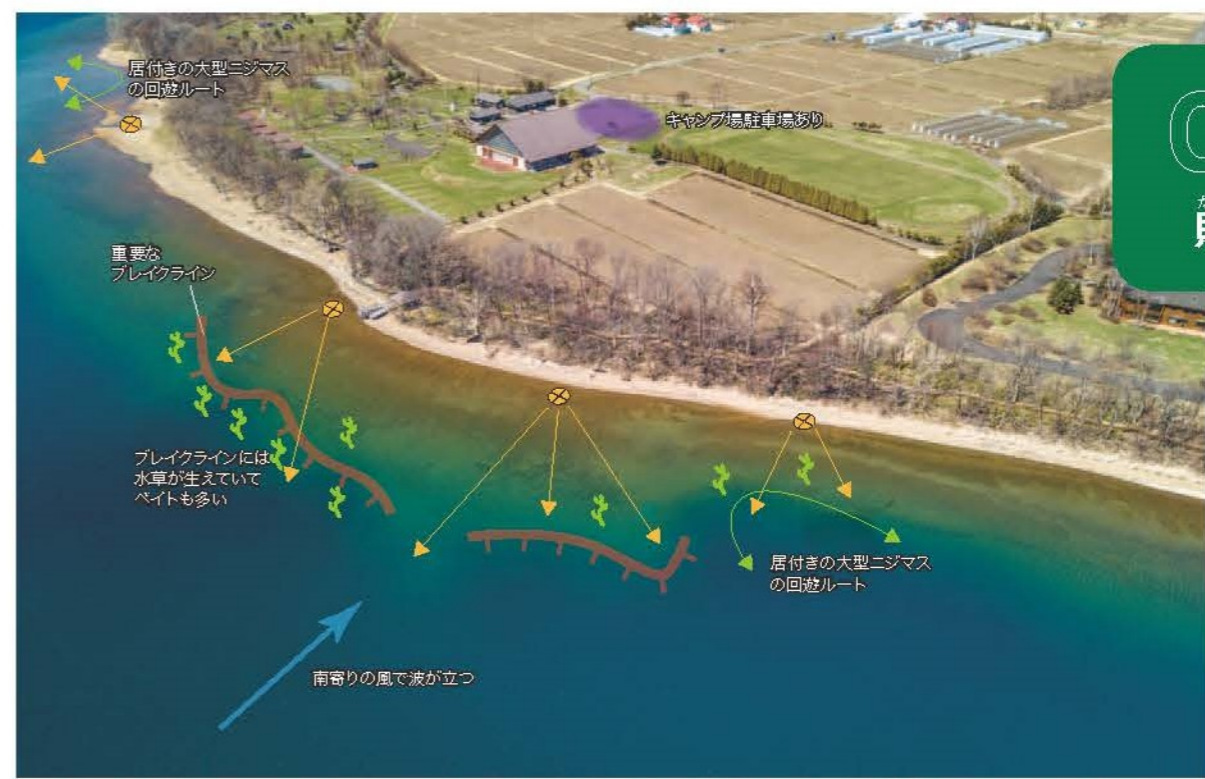


# 03

あさむら  
旭浦

道洞爺湖田線が湖岸沿いを通るエリアのうち、駐車帯が近くにある岬。湖岸から数メートル先から急深なカケアガリになっており、沖はとて深いように見える。湖の最深部に近いエリアだ。青々とした淵に見えることから「青淵」とも呼ばれるポイントも近いが、そこらはエサのブッコミ釣りが多く、ルアー、フライではこちらのほうが有望。水通しがよくベイトの回避、トラウトの回避とも多い。最近では岬の周辺部のカケアガリ、シャロー一部でニジマスの回避がよく見られる。ワンド奥の沢の流入付近も有望だ。特に居付きのようなニジ

マスが、解禁初期にはよくヒットする。サクラマスやヒメマスの好ポイントは急深部の沖め。ルアーもフライもカウントを長めにとってよく沈め、広範囲に探るのが好結果につながる。やはり南～東寄りの風で波が立つような時に結果が出やすい傾向がある。道路下の岩場が立ち位置になるが、水中は崖のように見える箇所もあり危険が伴うため注意が必要である。ワンドの途中に駐車スペースがある。



# 05

たからだ  
財田

北側に緩やかに突き出した扇状地で、全体に遠浅で遠投が必要なエリア。急深なポイントが多い洞爺湖では珍しい地形。トラウトが回避するのは岸から20mほど先の緩やかなブレイクライン。冬～春シーズンは水位が低いのでねらいめだが、夏のシーズンは水位が高くブレイクは遠い。中央に東屋と桟橋があり、そこから正面の沖に遠投して広範囲に探る。サクラマスがブレイクライン付近を回避するので、群れが

近づくとしばらく釣れる時間帯がある。また写真左奥のやや小さなワンドは深みが岸近くに迫っており、そこは居付きのニジマスなどのヒットポイント。特に解禁直後が有望である。東側にソウベツ川があるため、初夏の南風が当たる日はマヅメ時にサクラマスが連続ヒットすることがある。全体的に冬のシーズンは北風の上手になって波が立つことが少ないのでヒットの確率は下がるといわれている。

# 06 ソウベツ川



財田の扇状地の東側から流れ込むソウベツ川のインレット付近。流れ込みの沖は深場が続いており、左右どちらにも立ち込める程度の深さが続く。冬と夏のシーズンを通して好ポイント。ワカサギ、シュリンプなどのベイトを求めてサクラマス、ニジマスが接岸する。

特にインレットから右手側、角のなだらかな岬はやや立ち込める位置が広く、そこから沖をねらうとサクラマス、ヒメマスのヒット

につながりやすい。このエリアで最も人気場所のひとつである。最近ではニジマスのヒットも多い。

インレットへ向かうにはソウベツ川沿いの道を湖岸に向かい、左手の砂利道を進むと東屋と駐車場がある。そこから小道を湖岸に下りて左手がインレットだが、その正面から右手側の湖岸も実績の高いポイント。ブレイクラインが10mほど沖なので、できるだけ斜めにトレースするようにキャストをすると効果がある。

# 07 えぼし岩公園



北西岸に続く急深な湖岸。バス停の岩屋、洞爺湖サクラ園などがある。北岸の有名ポイントである。岸から徐々に深くなりトラウトが広範囲に回遊する。中央ワンドの奥に小さな沢が流れており、ベイトも多い。ワンドの右岸にある岬の沖は急深、サクラマス、ヒメマスの回遊ポイント。

ワンドの奥も比較的水深があり、春先の雪解け時にはワカサギも接岸するため、特にサクラマス、ニジマスの良型が釣れる。サクラマ

スはカケアガリの沖側、ニジマスは狭い範囲を回遊する居付きのタイプがよく見られるエリア。

道路と岸の間には湖畔林があってバックスペースはあまりない。湖全体にいえることだがフライならスピーキャストが無難である。

南西方向からの風で荒れ気味になり近場でヒットするパターンが多い。岬付近は車の駐車スペースはないのでやや遠い場所から歩く必要があるが、ワンド側に停めて岬まで探りながら歩くのが無難。



湖の西岸にある扇状地の緩やかな岬。大川という沢が流れ込んでいて春はワカサギの産卵河川。ウエーディングが容易なため、特にフライフィッシャーに人気がある。初夏の大型サクラマスのメッカだが、近年は大ものニジマスの釣果がよい。

本命はインレットの右岸側。遠浅でカケアガリは緩やかに沖へと続いている。水深は充分にあり、沖の深場はもちろんのこと、荒れた日はカケアガリの岸寄りまで魚が回遊する。右岸の奥は以前から居付きのニジマスが

多いポイントで、初夏はライズをする姿も見られる。左岸のワンドは急深で右岸よりも水の動きが少ない。だが右岸の釣り人を嫌って魚が寄ることもあり侮れない。この春には浅場で大型ニジマスが連続ヒットしたポイントでもある。

冬の西風や夏場の南風が強い時こそ有望。夏のシーズンはキャンプ場利用者が多いので、少し離れた公園の駐車場を使う。

# 09

## そうまみょうけん 相馬妙見 神社付近

通称「岩盤」と呼ばれる岬付近は、写真奥の発電所から続く急深エリア。長流川から水を引き込んだ放水口2カ所に挟まれたエリアなので、洞爺湖の中でも最も水の流れがよく、全体的な湖流も強い。ベイトのワカサギも集まりやすいせいか、大型のヒメマス、サクラマスが頻繁に回遊する。小魚を捕食したヒメマスはより大型に育ちファイトも激しい。なお最近ではサクラマスが多い傾向がある。

岬の先端周辺が岩盤の棚になっていて、その沖がブレイクライン。トラウトの回遊コースになっているため、ウエーディングして回遊を待ちながら粘り強く釣るのが好結果につながる。左岸のカケアガリは緩やかで回遊ラインは遠くなる。右岸のワンドは大型のニジマスが近年はよくヒットし



ている。また、数は少ないもののブラウントラウトがヒットするポイントとしても有名。

南西方向からの風の時に波が立ち、強いニゴリも出て、好結果につながることが多い。道路のカーブ付近に駐車スペースがある。

# 10

## 旧滝ノ上 キャンプ場付近

以前は営業していたキャンプ場の右側にある半島。半島の先端、左右のワンドともに有望なポイント。湖のアウトレットが近いので、水通しがよい。回遊するトラウトも多い場所だ。大岩が水中に点在していて、岩盤の切れ目付近などは、居付きのトラウトが有望なポイント。

半島の先端から沖に向かってカケアガリが続き、沖にかけてヒットポイントも広範囲に広がる。深場はサクラマス、ヒメマスが中心。岸近くはニジマス、ブラウントラウトのヒット傾向が強い。

湖に向かって左側のワンドは湖の流れ出しの壮瞥川へと続いており、特に流れの強い日は魚が集中することがある。岬の先端から続く馬の背状



のカケアガリは丹念に探りたい。右側のワンドは凪いでいることが多いが、居付きの大ものニジマスがいるので警戒されないようにアプローチしたい。冬～春シーズンは常に風が当たり、荒れている日が多い。